

日本作物学会第 236 回講演会小集会開催報告 「春まきソバ栽培－現状と今後の展開－」

杉本秀樹¹⁾・原貴洋²⁾・林久喜³⁾・道山弘康⁴⁾・森下敏和⁵⁾・手塚隆久²⁾

(¹⁾ 愛媛大学農学部, (²⁾ 九州沖縄農業研究センター, (³⁾ 筑波大学大学院生命環境科学研究科,

(⁴⁾ 名城大学農学部, (⁵⁾ 北海道農業研究センター)

2013 年 9 月 11 日, 15:15~18:15 に第 2 会場において標記小集会が開催され約 20 名が参加した。

ソバは生態系および栽培時期によって「夏ソバ」, 「秋ソバ」およびその「中間型」に分けられる。日本では秋ソバ栽培が主流で, “そば” の主な需要期である夏にとりたてで新鮮なソバを安定供給する態勢がなかったことから, 短日要求性の低い夏ソバ品種を用いた春まきソバ栽培技術の開発が 1990 年頃から始まった。現在九州を中心に広がりを見せており生産物は地域の特産品として地域興しにも大いに活用されている。

2011 年度から九州沖縄農業研究センターを中心に「温暖な気候を活かしたそば春まき栽培の生産技術確立と産地形成」と題したプロジェクトが実施されており, これによって春まきソバの研究は著しい進展を見せている。そこで, その研究成果の報告をもとに今後の課題について議論を深め, さらにこのような取り組みについて一般会員にも知っていただくため本小集会を開催した。

「沖縄における播種期と収量の関係, そしてソバ生産の展開方向」と題し, 沖縄県農業研究センター名護支所の平松紀士氏から, 沖縄におけるソバの栽培可能期間は 10 月~5 月, 播種期は秋まきが 10 月下旬から 11 月中旬, 春まきが 2 月下旬から 3 月中旬でいずれも早まきの方が多収であったこと, ソバは栽培期間が短いサトウキビやパイナップルとの輪作作物, 赤土流出防止のためのカバークロップとしての利用が考えられること, 今後は地域の実情に合わせた生産および経営モデルの作成を行う旨の報告があった。

「鹿児島県における春まきソバ栽培に関する試験研究の取り組みと現地での栽培」について, 鹿児島県農業開発総合センター大隅支場の竹牟禮(たけむれ)穰氏から, 同県における近年のソバ作付面積は約 1000 ha で, 春まきソバが約 100 ha であること, 系統適応検定性試験, 播種期や施肥量などの試験を行っていること, 日置市吹上町, 志布志市, 西之表市(種子島)で春まきソバ栽培とソバを活用した地域振興に取り組んでいることなどの報告があった。今後, 生産者と関係機関が連携してこの取り組みを継続していくとのことである。

「宮崎県における春まきソバ栽培の取り組み」について, 宮崎県総合農業試験場の北崎康生氏から, 同県における 2012 年度のソバ作付面積は 533 ha で, そのうち水田が 65% を占めること, 秋まき栽培が中心であったが, 近年は春まき栽培も増えており, 播種時期, 播種量, 施肥量試験, 収穫時期の判定, 春まきソバと飼料稲体系の検討などが行われていることなどが報告された。今後は, 水田版の春まきソバ栽培マニュアルの作成, 2 カ年の現地実証の作柄の変動を踏まえた栽培上の課題への対応, 新たなソバ需要の開拓や水田高度利用の検討を行う。

「大分県豊後高田市における乾燥速度がそばの品質に与える影響」と題し, 豊後高田市農林振興課の佐藤良平氏から報告があった。同市では 2003 年以降本格的なソバ栽培が始まり, ソバを利用した地域振興が図られている。2013 年度の作付面積は, 春まき栽培 80 ha, 秋まき栽培 120 ha である。現在, 遠赤外線式乾燥装置を用いたソバ乾燥法の確立に取り組んでおり, 乾燥開始時から温風を送ることで乾燥乾間が短縮でき品質低下もみられないことが報告された。今後は, さらなる効率化を図るため, 乾燥途中に減水速度を上げる二段階乾燥法などを試みることにしている。

総合討論では, 春まき栽培における結実不良が話題となった。宮崎県や豊後高田市などでは, 2013 年度の春まきソバは, 開花数は確保されたが結実率が著しく低く, 収量が極めて低かった。生育初期段階の低温, 開花・登熟期の土壤乾燥, リン酸肥料の不足などがその原因と考えられる。これまでに蓄積されたデータを整理するとともに, 結実不良発生についてさらに検討していくこととした。

最後に「韓国のソバ栽培の現状」と題し, 韓国忠北大学校の禹仙熙先生の特別講演があった。韓国のソバ栽培面積は 2000 ha, 生産量は 2000 t, 麺やそば茶など食用の他, 緑肥, 被覆, 飼料, 景観形成作物としても利用されていること, 春まき栽培も行われており播種期は南部平野部が 4 月中下旬, 中部平野部が 4 月下旬, 高冷地が 5 月下旬であること, 韓国でも健康食品としての“そば”が注目されており, 近年はダッタンソバの利用促進が図られていることなどが紹介された。さらに, 2016 年には清州で国際ソバシンポジウムが開催されることから, その参加要請も行われた。